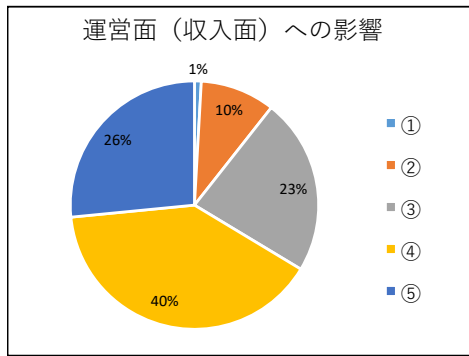
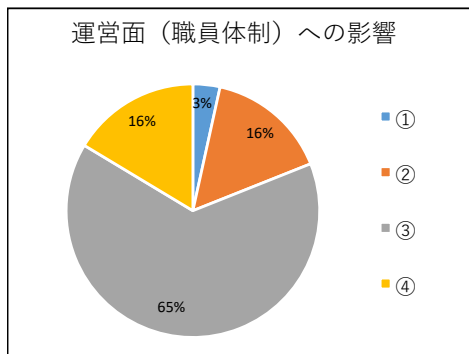


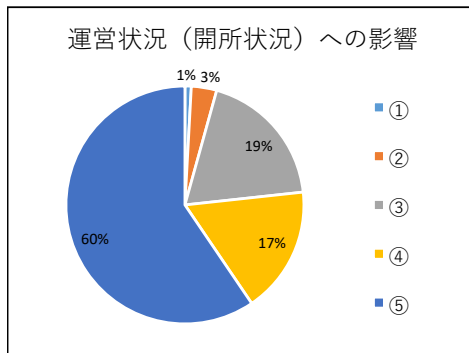
福島県自立支援協議会子ども部会
新型コロナウイルス感染症に係る対応状況アンケート



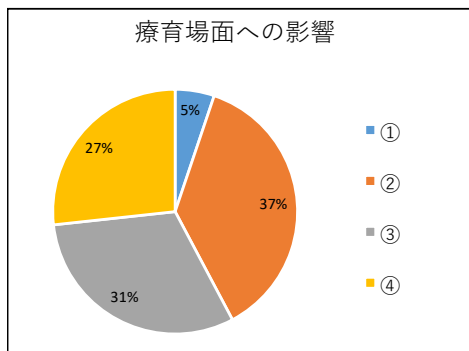
回答内容	事業所数
① 増収になった（昨年同時期の約1.5倍以上）	1
② 増収になった（昨年同時期の約1.1～1.4倍以上）	11
③ 減収となった（昨年同時期の約50%未満）	26
④ 減収となった（昨年同時期の約50～99%）	45
⑤ 影響はなかった	30



回答内容	事業所数
① 大きな影響があった（常時職員不足となった）	4
② 多少影響があった（時折人員不足となった）	18
③ ほとんど影響はなかった	75
④ 全く影響はなかった	19

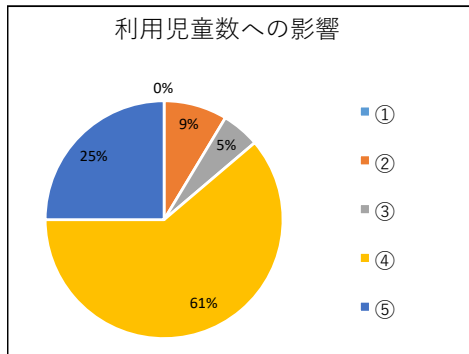


回答内容	事業所数
① 長期間休業した（2週間以上）	1
② 一定期間休業した（2週間未満）	4
③ 時間を短縮して運営した	22
④ 受入人数を制限して（減らして）運営した	20
⑤ 通常どおり運営した	69

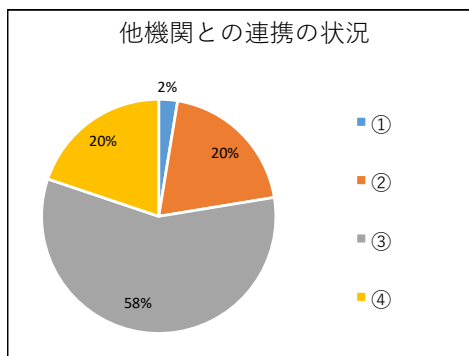


回答内容	事業所数
① 通常どおりの療育が困難だった	6
② 多少の混乱はあったが障がい特性に応じた工夫をし、対応した	43
③ あらかじめ緊急時の準備をし受け入れたため大きな混乱はなかった	36
④ 通常どおりの療育を実施できた	31

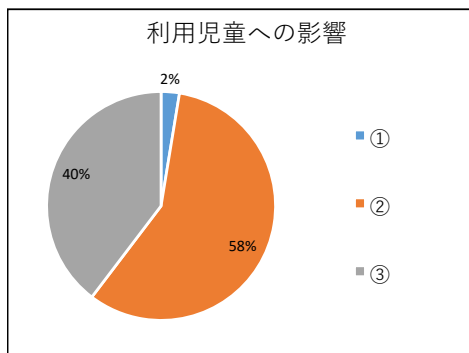
福島県自立支援協議会子ども部会
新型コロナウイルス感染症に係る対応状況アンケート



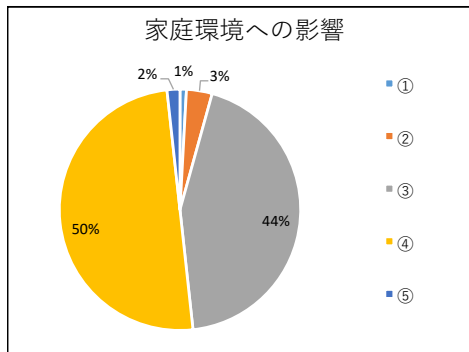
回答内容	事業所数
① 大幅に増えた (平常時の約1.5倍以上)	0
② 多少増えた (約1.1倍~1.4倍)	10
③ 大幅に減った (約50%未満)	6
④ 多少減った (約50~99%)	71
⑤ 通常どおり	29



回答内容	事業所数
① 困難だった	3
② 困難だったが、代替手段 (電話、Zoom、メールなど) で対応した	23
③ 時期がずれ込んだが、次第に通常どおりになった	67
④ 通常どおりだった	23



回答内容	事業所数
① 支援度が上がったお子さんが多かった (利用児の半分以上)	3
② 支援度が上がったお子さんも多少いた (利用児の半分以下)	67
③ 支援度が上がったお子さんはいなかった	46



回答内容	事業所数
① 大きな影響があった (虐待、家庭内暴力等に繋がったなど)	1
② 影響があった (虐待や家庭内暴力等に繋がりそうな状況だったなど)	4
③ 多少影響があった (保護者からの相談が増えたなど)	51
④ ほとんど影響がなかった	58
⑤ 全く影響がなかった	2

福島県自立支援協議会子ども部会
新型コロナウイルス感染症に係る対応状況アンケート

【Q2～8のまとめと考察】

Q2 運営面で工夫したこと

- ・ほとんどの事業所でマスクの着用、手指消毒などの感染予防対策を徹底していただいています。
- ・事業所内での感染予防策を文書や絵、写真等で提示し、お子さんや保護者さんに分かりやすく提示いただいているところも多くありました。
- ・また、電話やZoom、家庭訪問等の代替支援を活用して、利用されている方の安心につなげようと支援をされている事業所もありました。

Q3 療育面で工夫したこと

- ・お子さんたちの活動場所、活動時間を分けたり、小グループ制にして療育を提供するなど、3密対策も行っていたように見えます。
- ・活動内容など通常の療育からの変更を余儀なくされた事業所も多いようですが、変更点などを視覚的に示し、お子さんたちに見通しを持ってもらうことで、安心につなげている事業所もありました。
- ・マスクの着用、手洗いなどのお子さんたち自身ができる感染予防策についても、視覚的に情報を提示し、スモールステップで取り組むことで、お子さんたち自身のスキルとして獲得できることが多いようです。

Q4 保護者（家庭支援）で工夫したこと

- ・様々な連絡手段を使って、いつも以上に相談体制を強化していただいている事業者が多いようです。
- ・緊急事態宣言中などは学校が休校になり、親子で過ごす時間が増えることでトラブルにつながった（つながりそうだった）という報告も多くありましたので、保護者さんの心配事、困りごとをこまめに聞くことが大きなトラブル（虐待など）の防止につながるものと思われます。

Q5 他機関との連携で工夫したこと

- ・Zoom等のオンラインミーティングツールを活用している事業所も多くありました。
- ・ケース会議などは緊急度の高いものは通常どおり行い、それ以外は延期、中止、書面開催などの対応をとっていることが多いようです。
- ・Q4での記載のとおり、イレギュラーな状況になることでリスクが高まるご家庭もあることから、日頃からのリスクアセスメントと関係機関での情報共有（共通理解）が重要になるものと思われます。

福島県自立支援協議会子ども部会
新型コロナウイルス感染症に係る対応状況アンケート

Q6 課題に感じていること

- ・事業所内で感染者が出た際の対応や衛生用品が不足することに不安を感じられている事業所が多いようです。
- ・また、感染予防に対する職員間の認識のズレについて指摘される事業所もありました。

Q7 今後の備えについて

- ・衛生用品の確保、備蓄を行っていただいているところがほとんどのようです。県や国の補助事業なども適宜活用いただければと思います。
- ・日頃の感染対策や感染者が出た場合の対応について、法人でマニュアルやフローチャートを作成しているという報告も多く挙がりました。事業所内で統一した対応をとるためには、マニュアルやフローチャートを作成し、共通理解を図ることも有効かと思われます。

Q8 その他の情報提供

- ・自立支援協議会や地域の事業所の集まりを活用して、自治体に要望を挙げたり、共助の仕組みを検討したりしている地域もあるようです。
- ・これまでどおりの集まりが難しい状況ではありますが、個々の事業所で課題や不安を抱え込まず、組織（協議会）として問題の集約や解決策の検討を行うことが有効であると思われます。